

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成29年11月9日(2017.11.9)

【公表番号】特表2015-516161(P2015-516161A)

【公表日】平成27年6月11日(2015.6.11)

【年通号数】公開・登録公報2015-038

【出願番号】特願2015-511622(P2015-511622)

【国際特許分類】

C 1 2 N 5/0735 (2010.01)

C 1 2 N 5/074 (2010.01)

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

C 1 2 N 5/071 (2010.01)

【F I】

C 1 2 N 5/00 2 0 2 C

C 1 2 N 5/00 2 0 2 D

C 1 2 N 5/00 1 0 2

C 1 2 N 5/00 2 0 2 A

【誤訳訂正書】

【提出日】平成29年9月21日(2017.9.21)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 5 3

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 5 3】

増殖させた多能性幹細胞株は、標準的な G バンド法を使用し、対応する霊長類種の発表されている核型と比較することで、核型を決定することができる。細胞は「正常な核型」を有することが望ましく、「正常な核型」とは、細胞が正倍数体であり、ヒト染色体がすべて揃っておりかつ目立った変化のないことを意味する。多能性細胞は、様々なフィーダー層を用いて、又はマトリックスタンパク質被覆した容器を用いて、容易に培養で増殖させることができる。あるいは、m T e s r (登録商標) 1 培地 (カナダ、V a n c o u v e r の S t e m C e l l T e c h n o l o g i e s) のような既知組成の培地と組み合わせた化学的に既知組成の表面を、細胞のルーチン増殖に用いてもよい。多能性細胞は、酵素で、機械的に、又は E D T A (エチレンジアミン四酢酸) など様々なカルシウムキレート剤を用いて、培養プレートから容易に取り出すことができる。あるいは、多能性細胞は、マトリックスタンパク質又はフィーダー層の非存在下で、懸濁液中で増殖させてもよい。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 7 4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 7 4】

ヒト胚性幹細胞系 H 1 (h E S C H 1) の細胞を、種々の継代 (4 0 継代 ~ 5 2 継代) で採取し、1 0 μ M の Y 2 7 6 3 2 (R o c k 阻害剤、カタログ番号 Y 0 5 0 3、米国ミズリー州の S t . L o u i s の S i g m a A l d r i c h) を追補した m T e S R (登録商標) 1 培地 (カナダの V a n c o u v e r の S t e m C e l l T e c h n o l o g i e s) 又は 1 0 μ M の Y 2 7 6 3 2 を追補した M E F - C M (調整培地) のいずれか中に

、Matrigel (商標) をコーティングした皿上で、以下の密度で単一細胞として播種した： 0.3×10^5 細胞 / cm^2 、 0.5×10^5 細胞 / cm^2 、 0.75×10^5 細胞 / cm^2 、 0.9×10^5 細胞 / cm^2 、 1×10^5 細胞 / cm^2 、 1.25×10^5 細胞 / cm^2 、 1.5×10^5 細胞 / cm^2 、 1.8×10^5 細胞 / cm^2 、及び 2×10^5 細胞 / cm^2 。播種の 48 時間後に、培養物を不完全な PBS (Mg 又は Ca を含まないリン酸緩衝生理食塩水) 中で約 30 秒間洗浄し、インキュベートした。培養物を、以下の通りに、胚体内胚葉 (DE) 系統に分化させた：

ステージ 1 (胚体内胚葉 (DE) - 4 日)：ステージ 1 の培地 (2% の無脂肪酸 BSA (カタログ番号 68700、米国アイオワ州の Ankeny の Proliant)、 0.0012 g/mL の重炭酸ナトリウム (カタログ番号 S3187、Sigma Aldrich)、 $1 \times \text{GlutaMax}$ (商標) (カタログ番号 35050-079、Invitrogen)、 2.5 mM の D-グルコース (カタログ番号 G8769、Sigma Aldrich)、 $1:50000 \times \text{ITS-X}$ (Invitrogen)、 100 ng/mL の GDF8 (米国ミネソタ州の Minneapolis の R&D Systems) 及び $2.5 \mu\text{M}$ の MCX 化合物 (GSK3B 阻害剤、14-Prop-2-エン-1-イル-3, 5, 7, 14, 17, 23, 27-ヘプタアザテトラシクロ[19.3.1.1~2, 6~.1~8, 12~]ヘプタコサ-1(25), 2(27), 3, 5, 8(26), 9, 11, 21, 23-ノナエン-16-オン、米国特許出願公開第 2010-0015711 号、参照によりその全容が本明細書に援用される) を追捕した MCDB-131 培地 (カタログ番号 10372-019、Invitrogen (米国カリフォルニア州の Carlsbad)) において、細胞を 1 日培養した。次いで、2% の無脂肪酸 BSA、 0.0012 g/mL の重炭酸ナトリウム、 $1 \times \text{GlutaMax}$ (商標)、 2.5 mM の D-グルコース、 100 ng/mL の GDF8、及び $1:50000 \times \text{ITS-X}$ を追捕した MCDB-131 培地で細胞を更に 3 日培養した。